

開 議

○蒲生光男議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○蒲生光男議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

我妻 昇議員の質問

○蒲生光男議長 順位11番、議席番号7番、我妻昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 おはようございます。よろしく願いいたします。

振り返って考えてみますと私自身、昨年の3月定例会から丸1年間、観光振興について議論してまいりました。一般質問や予算総括で何度も同じようなことを繰り返し質問してまいりまして気づいたことは、自分は何てしつこい性格なんだろうかということにあります。懲りもせず、このたびも観光振興について質問させていただきますので、内谷市長にご答弁をお願いす

るものであります。

長井市には自慢すべき観光資源が数多くあると思っておりますが、観光地ですと胸を張って言えるような状態ではありません。でも、これからは観光を産業化させたい、観光で雇用創出を図りたい、観光で中心市街地活性化を目指すという強いリーダーシップを持って内谷市長は長井市を牽引しようとしておられます。

私は、この考え方は理解できますし、ぜひしっかりと取り組んでほしいと思っております。しかしながら、冷静に考えますと長井市にだけ観光客が訪れるということはまずあり得ないのではないかと、観光客を呼びたいのならば、少なくとも置賜3市5町との緊密で戦略的な連携が絶対条件ではないかと思えてくるのであります。お客様をとり合うのではなく、共有するような考え方に立たないといけないのではないのでしょうか。

ですが、この1年間の観光振興にかかわる議論を思い返したとき、このことについてはほとんど語られてこなかったように感じております。

今、策定委員の皆様が観光振興計画の作成にご尽力をいただいておりますが、広域連携についてどのように盛り込まれていくものなのか、お聞かせください。

また、現時点で内谷市長は、それぞれの市長、町長と広域連携についてどれだけの意思疎通を図っておられるものかもお聞きするものであります。

平成25年度は、翌26年度のデスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンの年であると聞いております。6月のあやめまつりころから本格的に取り組むことになるだろうと思いますが、首長同士、行政同士の連携はもちろんのこと、観光協会や市民レベルの連携に発展させる絶好のチャンスではないかと思っております。これまでのような花回廊だけの緩やかな連携にとどまらず、通年型の10年、20年先を見越した

戦略的連携を目指してほしいのでありますが、市長はどのような方針をお持ちか伺うものであります。

次の質問に移ります。

私は、これまで何度か長井市にはコンベンション機能が必要だと言ってまいりました。このたびの施政方針の中に観光プラットホームの組織化を目指すとありました。そうであれば、ぜひ組織化の大きな柱にコンベンション機能を据えるべきだと思いますが、いかがでありましようか。

外部からお客様を呼ぶことができるのは観光だけではありません。スポーツ、芸術、文化、丸々協会、丸々組合、丸々会議所など各種団体の活動が活発になればなるほど多くのお客様を呼ぶことにつながります。それぞれの団体が抱えている少ないスタッフ体制では、大きな大会や総会を開催することが難しいと思われます。相当の覚悟がないと東北大会や全国大会などの大きな事業を誘致できません。手を挙げるのをちゅうちょしてしまうというのが現実だと思います。しかし、それをバックアップするコンベンション機能が確立されていれば話が違ってくるのではないのでしょうか。ぜひ長井市でもコンベンションビューローの体制づくりを本気で考えるべきだと思いますが、いかがでありましようか。

加えて、そもそも観光プラットホームとはどんな組織を想定しておられるのかもお聞きしたいと存じます。既存の組織、例えば地場産業振興センターや観光協会、商工会議所などをまとめて一つに組織化しようとしているものなのか、あるいは全く別な組織を新たに設立させようと考えていらっしゃるのか。職員を何人か雇用するような大きな組織か、あるいは小さな組織かも含め、市長にお聞きするものであります。

次に、観光交流拠点施設であります。

今定例会には上程されておりませんが、都市

再生整備事業で観光交流拠点施設、かわと道の駅を建設する計画が1年前から示されております。さまざまな議論を重ねて思うことは、もっと柔軟な発想で取り組んでほしいということでもあります。

国交省が進めている道の駅にこだわってしまうえば、24時間体制の運営を強いられ維持管理が大変になりますし、バイパスにこだわってしまうえば、まちなかに人を誘導するどころか、現在のまちなかのお客さんがバイパスに流出してしまうおそれがあります。

発想を転換し、適度な観光交流施設として計画を立て直してほしいと思っておりますが、いかがでありましようか。

以前も紹介しましたが、栃木県鹿沼市には3年前にオープンした観光の拠点施設があります。まさにまちの中心部で、ジャスコが撤退し、長く空きビルになっていたところを整備したそうです。

まちの駅 新・鹿沼宿と名づけられたこの施設は、地元の方々が運営する飲食店と物産店、直売所、観光案内所があり、広過ぎず、狭過ぎず、適度な空間だと感じました。外には駐車場に隣接して多目的広場があり、市民グループのイベントが開催されていました。また、日本一きれいなトイレを目指しているというトイレもあり、「トイレの神様」で大ヒットした植村花菜さんのお墨つきの色紙が飾られておりました。営業時間は朝9時から夜7時まで、トイレは夜9時までとなっており、駐車場もその時点で閉められます。平日も行きましてし土日も行きましたが、市民や観光客でにぎわっていて、とても明るい印象を受けたところです。

私が交流している風間さんは、全くの市民レベルの活動をされている仕掛け人で、商売の傍ら、人をまちなかに集める活動を長くしてこられ、今ではまちなか全体を商店街に見立てた取り組みにまで発展させておられました。24年度

から起業家支援もさらに充実されたようで、空き店舗が徐々に減ってきているとのことでした。それらの活動の中心が、この拠点施設となっているのであります。

当初は30億円もの豪華施設を予定していたものの、当時の市長に暴力団との関係が発覚したことにより、事業の大幅見直しを掲げた新しい市長が誕生して、このような施設になったとのことです。

長井にとってのお手本となり得る施設のあり方など私なりに思っておりますが、市長はいかがでありますでしょうか。

最後に、長井ダムと観光についてであります。

長井ダムとその周辺には、我々に無限の恩恵を与えてくれる資源がたくさんあります。朝日山系の雄大な山々、大自然、水源、きれいな水、癒しなど、しっかり環境保全に努めれば、ほぼ無限の資源、財産であります。施設としては発電所、道照寺平スキー場、コミュニティセンター、野川まなび館と広大な広場、建設予定の小水力発電所、住民主体で検討中のスカイパークなど、観光に生かせるところがたくさんあります。これら自然や施設を生かし、市民や観光客にとって魅力ある環境に整備していくべきであると思っております。

その中でも特に野川まなび館の存在がポイントになってくるのではないかと私は感じております。これまでは、維持管理にお金がかかる、人件費を捻出できない、収益事業が見当たらないなどの理由で単年度のみ予算計上となってきましたが、どうかそこから脱却すべきではないかと思っております。

私は財源があると思っております。それは固定資産税と電源立地交付金です。固定資産税は毎年目減りしていくものの、現在は1億円の収入があり、電源立地交付金440万円は、まだ10年ぐらいは交付される見込みでありますので、十分過ぎる財源があると言っていいと思います。

このような収入の恩恵があるのは長井ダムの存在があるからであります。ダムがなかったら入ってこないお金なのであります。せつかくのありがたいお金ですから、もっと人が集まるような事業に、環境を保全させるための事業に活用させなければならないと思うのであります。

昨日、一昨日の議論で、野川まなび館についてのアイデアがさまざま出されましたので具体的には触れませんが、単年度ではなく長期スパン計画を立ててほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

市長にお聞きし、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

我妻 昇議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、自分が何てしつこい性格なんだろうかというふうなことをおっしゃってますけれども、そうではなくて、やっぱり信念を持って観光振興についていろいろ意見交換をするという意味では敬意を表したいというふうに思っております。

まず、ご質問の1点目でございますけれども、長井市だけに観光客が来るとは考えられない、3市5町間の連携をどう図っていくのかということでございますが、これは我妻議員がおっしゃるとおり、長井だけに観光客を呼ぶというのはかなり難しい至難のわざです。したがって、まずは山形県に、あるいは山形県の中の置賜に、そして西置賜の中の長井にということでの連携をいかに図るかということは極めて重要だと思います。やはり、広域観光の重要性は議員がおっしゃるとおりで、一つの市だけでは展望が開けず、置賜地域そして県内と広域事業の拡大をどのようにするかがこれからの鍵になるというふうに思います。

現在の広域事業といたしましては、代表的な置賜さくら回廊の観光推進協議会、これは2市

1町でございますけれども、これをはじめ山形おきたま観光協議会、これは3市5町と民間で、加えて県も入っていただいています。それから、置賜さくら回廊が母体となって大きく発展したやまがた花回廊キャンペーン協議会、現在では置賜3市5町と上山あるいは村山の北村山とかも入っていただけて県と民間、特にJRが入っているということが大きいと思います。それとやまがた観光キャンペーン推進協議会、これは山形県が主体となって県内の35市町全部の市町村が入って、それから民間、多くの団体が入ってやっている。これらが主なものだと思っております。

その最大事業が、議員がおっしゃるように平成26年度に繰り広げられるJR6社によりますデスティネーションキャンペーンでございます。最大の効果を上げるべく企画を持ち寄って、今後の観光振興のきっかけになれるよう活動しなければならぬと思っております。

この連携を図ると同時に、市内の受け入れ体制の準備が重要だということから、この後お答えする、いわゆる平成25年度から実施を計画しております観光まちづくりプラットフォームの事業で、民間の力をぜひともアップさせていきたいというふうに考えております。

やはり私どもが観光に力を入れるのは、観光客の皆さんにいかに関地域の物産とか食事とかお土産も含めてお金を使っていただけて、その経済波及効果を地域にもたらすということが目的でございますので、そういった意味では長井市の観光は花観光が中心ですけれども、これからは通年に誘客を図れるまちなか歩きや自然、ダム関連、ニューツーリズムに力を入れていくことになると思います。このこともプラットフォームで民意の中で推進し、その振興策を強めていくことになると考えております。

プラットフォームの組織では、旅行業の資格を有する人材が不可欠となりますが、例といたし

まして、置賜の通年の観光地といいますと上杉神社と伝国の杜ですが、具体的に商品にこういった観光地を組み入れるべく提案をし、取り組むことになるかと考えております。県内でも観光の王様の観光地と組むような取り組みがどうしても必要になるのではないかなというふうに思っておりますので、プラットフォームの今後にかかっているというふうに考えております。

失礼しました。また、議員からは、それぞれの市町村長と広域連携についてどれだけ意思疎通を図っておられるかというご質問がございました。

例えば、白鷹町とインバウンド、外国からの観光客ということで、きずなの桜というプロジェクトを立ち上げてやっておりますが、白鷹町さんとは置賜さくら回廊でも一緒にやっております。

置賜さくら回廊は、2市1町で持ち回りで協議会の会長をしてやっておりますけれども、やっぱり一番の目的は、一つの市町村だけではとてもとても広報等々に力を入れられる限度があるということと、一つの市ですと、例えば京都ぐらいの観光地になりますと、それだけでもJRをはじめ旅行のエージェント会社なんかいろいろ提携をしてくれるんでしょうけれども、私どもの小さい自治体ではとても相手にしてもらえません。ところが、置賜さくら回廊が間もなく12回ぐらいになるんですけども、この過程の中で非常に注目を浴びまして、それがやまがた花回廊になったと。今ではやまがた花回廊のポスターを、これはJR東日本のほうですけども、主要駅にポスターをずっと張っていただくと。これは今までは本当にあり得ないことだったと思っております。したがって、PRを連携することによって非常に効果を上げることができんじゃないかと。

したがって、例えば置賜でやっているとすれば置賜の3市5町にお越しいただいて、そこから

は、それぞれの市町村のほうでより魅力アップを図って、例えば米沢市あたりが代表的な観光地になりますので、そこからどういうふうに長井や西置賜に、あるいは置賜の観光温泉ですと小野川、白布、赤湯となるわけですけども、そこのお泊まりのお客さんにどういうふうに、じゃあ長井市にお越しいただくか、あるいは白鷹町にお越しいただくかというところは、あとはそれぞれの市町村の努力ということになるかなというふうに考えているところです。

また、2番目の質問にお答えしたいと思いますが、観光まちづくりプラットフォームの組織化にはコンベンション機能も必要ではないかということで、これは議員がおっしゃるとおりで、私もこれはぜひつらなきゃいけないというふうに思っています。

一時期、長井市でも特にタスが商工会議所でホテルのほうを経営されるようになってから、とにかく県とか県内の市町村にもいろいろ協力いただいて、いろんな会議をタスで行っていたこうということで、当時長井市も商工会議所が中心となってさまざまな取り組みをされました。残念ながら現在は、特にリーマンショック以降は、そういった活動が停滞してるのかなというふうに思いますけれども、タスに限らず、例えば今度リニューアルされるはぎ苑さんなんかも、市民はもちろんですし、周りの市町村の方はもちろんでございますが、広くいろんなところからいろんな大きい会議とか大会とか、そして議員おっしゃるように芸術文化の部分ですね、それからスポーツイベント、こういったものを持ってくる。それによって相当多くの経済波及効果を望めますので、これはぜひコンベンション機能を持ちたいと、持たせるべきだというふうに思っております。

単独で山形市みたいにコンベンションビューローみたいなものはなかなか、やっぱり宿泊機能が限度がありますので今の時点では難しいか

とは思いますが、ぜひそれは整備していかなくちゃいけないというふうに思っているところです。

そこでプラットフォームなんですけども、観光客にお越しいただくためのアイテムとしてもコンベンション機能は欠かせないというふうに思っています。しかし、プラットフォームはいわばソフトの組織協力隊というふうに考えておりまして、観光商品企画もその事業内容に含まれますけれども、地域内の既存組織、団体、グループが一つになり、仕組みづくりをしてまちづくりをしていくという効果が非常に高いものになるというふうに考えています。そういった組織体でありますので、ご指摘のような大きな大会等の誘致への協力体制が組みやすいということはあると思っております。

長井ではスポーツイベントとして、まず東北高校駅伝、男女の大会を2年に1回開催いただくということで、ことしで4回目になるんでしょうか。これについては、市でそれをしたわけではなく、あるいは経済団体でしたわけでもなく、これは高体連と地元の陸協、あと山形県の陸協が一生懸命誘致しようということで、私ども長井が地元で頑張っていたということで開催できたわけです。加えて県の高校駅伝もこれ長井、これは民間の方の力も非常に大きいと。例えばスポンサーみたいなものがあって、それで山形県のものも長井ということになったんですが、やはりこれは長井市だけでは宿泊が足りませんので、しかも東北高校駅伝ぐらいになりますと最低3泊ぐらいされますので、かなり大きな経済波及効果、これ長井市だけじゃなくて白鷹町、飯豊町、それでも足りなくて南陽市まで、ほとんどの宿泊施設が埋まると。

ただ、協力体制が万全かということ、これはなかなか問題が今までも生じております。去年あたりの、前回の批判的な反省を踏まえて考えてみますと、例えばお昼のお弁当が、やっぱり千食ちかく、一つの会社では無理ですからばらば

らになるんですね。そうすると統一メニューじゃないとか、あるいはおいしいところはあったけど非常にまずかったところもあったとか。そういったこと一つとっても、やっぱり協力体制がとられてない。あと旅館組合なんかも頑張っ
て協力していただけるんですが、なかなか宿泊所の統一性も余らないということで、これらなどがやっぱり課題として残っております。

そういった意味では、この体制づくり、協力体制、こういったものが非常に重要になっておりまして、プラットフォームというのは、その協力体制をいかに組んでいくかということで考えております。

イメージとしては、例えばの話ですけど、長井に旅館組合、麺組合、飲食業組合、菓子組合とかいろいろあるわけですね。それに観光協会、商工会議所とかいろんな団体がありますが、協力いただけるところに参加いただいて会員の組織をつくと。ただ、本当にやる気あるところだけしか必要ないと思います。やっぱり嫌々ながら、つき合いで入るんじゃなくて、来た観光客あるいはそういった大会等のお客様をちゃんともてなして、なおかつ自分たちも経済的メリットを受けるという強い意思を持ってそういう会をつくる。それをやはり行政が窓口というのは、これは観光振興計画の委員長の清水先生も、行政はだめだと。やっぱり民間が前に出ないとだめだということですので、長井市というよりは、例えば地場産業振興センターとか観光協会、商工会議所あたりが一体となってその窓口になって、そこにコンベンション機能も持たせると。場合によっては専属の職員も若干必要なのだと思います。そういった体制づくりをしながら、外に旅行商品なんかもつくって働きかける。コンベンションの誘致などもそこで営業をかけるというような考え方でしております。

ちょっと私の話がわかりにくいかと思っておりますので、少しきちんとしたところをお答えしたい

と思います。プラットフォームの考え方は、これまで行政、観光協会と旅行代理店、商工会議所と代理店、NPOと代理店というように、ばらばらの観光振興策を、まず第一は商品をつくるということ、第2点目は商品を販売する、3点目は来訪者をもてなすというこの三つの機能を一元的に担い、対外的なワンストップ窓口の機能を持つ組織をつくるということです。そして誘客を図ろうとするものでございます。地域みずからが商品をつくり、販売する自立に向けた取り組みとも言えると思います。地域の多様な人や組織が参画して取り組む集客交流事業を活用した地域経済の活性化を目指すものでございます。

新たに別の組織ができるというよりは、既存の組織体が協力して一つの目標を一緒に達成していくという仕組みをつくるわけですので、そこで生まれる雇用はあるかもしれませんが、職場としては小さなものになると思います。しかし、そこにかかわる方々は市内全域に及ぶ大きなものになるのではないかと考えております。

プラットフォームは、まずみんなで勉強するところから始めて、長井市の場合はどういう方向で進めばよいか見きわめながら進めていきたいと思っております。

ただ、現在のタスビルは、当初コンベンション構想があり、さまざまな会議、大会等を招致して活性化しようと考えられたものですので、原点に立ち返って進めることも視野に入れなければならないと考えております。

現在、観光プラットフォームの組織を持って活動している23地域、これ全国にあります。東北にはまだありません。それぞれの地域によってその組織は違い、新たに組織をつくるパターンと、核とする既存組織、例えば地場産業振興センター等の会社をプラットフォームに進展させる方法に大きく分かれているようです。ただ、非常に重要なことは、行政主導ではなく民間の

力を持って進める必要があるということです。プラットフォームの考え方や意義を十分地域の組織や関係者に理解していただき、その観光を振興させるためのエネルギーを民力でまとめることが肝要だと思ってます。そのため、大抵3年ぐらい時間をかけて組織をつくっていききたいというふうに思っているところです。

私どもの知ってるところでうまくいった例は、長野県の飯山が非常に素晴らしいプラットフォームをつくっているということでございます。

次に、3点目、観光交流拠点は柔軟な発想でということでございます。

この中で、議員がおっしゃってる鹿沼のまちの駅というのは非常におもしろい考え方で、私もこれは素晴らしい、参考になるべきところはたくさんあると思ってます。これは観光プラットフォーム、今言ったプラットフォームに近いやり方じゃないのかなというふうに思っているところです。

観光振興計画では、最終的に花がいっぱいで、豊かな水を生かして豊かな緑と共存できる誇りあるまちを目指していこうというものですけれども、その中で人口減少、経済の衰退という課題に対して、多くのお客様に来ていただいて、市民とお客様が一体となって一緒になって元気なまち長井をつくっていくという道筋を立てております。お客様にお越しいただくための呼び水として、今の長井市にない、通年で利用できる案内機能もある長井市を知ってもらう場所ということで観光交流拠点が必要だというふうに考えたところでございます。長井への入り口として、お客様をまちなかに呼び込むための施設で、そういった機能を持たせたいと考えてるものです。

議員がおっしゃるとおり、まちなかへの入り口ができれば、まちなかにも受け入れる施設や仕組みが必要になると思います。これについては、中心市街地の計画の中でも検討していき

たいというふうに思っているところです。

議員からは、国交省が進めている道の駅は24時間ということなんですが、例えば西置賜にある小国、飯豊、白鷹の道の駅は、確かに夜はトイレと観光案内、無料休憩所はあけてるところもあるんですが、営業はやっぱりおおむね7時か、遅いところでも8時ぐらいで24時間ではないというふうに考えてまして、もちろん長井の道の駅も24時間なんてする必要は全くないだろうというふうに思っているところです。ただ、トイレ休憩とか、あるいはちょっと一服するための無料休憩所と自動販売機、観光案内、そういったものを利用できる、そういうふうに考えておりますし、議員のほうは現在考えているところが、候補地のところがバイパスでまちなかじゃないということなんですが、長井はもともと川のまちですから、川とまちが一体となったかわまちづくりも国の事業として取り組んでいただいているということから、私はバイパス沿いというのはもう既にまちなかだというふうに思っています。

今回の中心市街地活性化基本計画の域内、残念ながらフラワー長井線から西のほうは、まちなかとして入れることはちょっと規模的に難しいんですが、タスはもちろんですけれども、バイパスの今回の予定地なども中心市街地という捉え方をしておりますので、バイパスにお客さんが逃げてくということではないんじゃないかなと。

タスについてもバイパスにあるわけですから、そういった意味ではもうまちなかだというふうに考えておりまして、議員がおっしゃってる鹿沼のまちの駅ですか、これは非常におもしろい発想で、結局、例えばその拠点というのはいっぱいあるわけですけども、タスもそうですし、今度のかわと道の駅あるいは小桜館、それから丸大扇屋とか、あやめ公園とか總宮神社とか、本町のほうでもやませ蔵とかいっぱいあるわけ

ですね。そこに民間のお店が、うちもまちの中の駅だよと言っていただいで協力いただければ、その鹿沼と同じようなまちの駅じゃないかと。

あと加えて山形河川国道事務所の手塚所長さんのお話ですと、私も道の駅と鉄道の駅、これをつなぎ合わせた、そういったまちなかの駅ということでの取り組みをいろいろ指導した経験もあるということをおっしゃってますので、駅すらも、鉄道の駅ですね、それもまちの中の駅というふうに考えて、その連携を図って、例えばバスにお泊まりのお客さんがまちなかのお菓子屋さんでお土産を買うとか、まちなかのおそば屋さんで食事をするとか、そういったところがまちの駅であり、プラットホームの仕組みだというふうに私は考えているところです。

あと最後の質問で、長井ダムの恩恵を観光に生かすべきということで、長井市は東北でも有数の大きさを誇る長井ダムと、ダム建設によりアクセスが便利になった周辺のすばらしい大自然、自然環境というこの資源をどう生かすかが課題だというふうに思います。これは全く私も我妻議員と同じ考え方です。

長井ダム水源地域ビジョンでは、このようなすばらしい自然環境を大切に市民を育てていくとともに、活用して情報発信することにより、長井の人と地域を元気にする目的で、できるところから取り組みを始めていきたいと思っています。

現在は、市民の皆さんと各団体により、どのような活動や活用ができるか、実証実験しながら進めている段階でございます。施設の維持管理についても、どのような工夫で安価に済ませるか検討することも必要だろうと思っております。我妻議員がおっしゃるとおり、まずこの資源を観光に生かしていく取り組みを進めたいと、水源地域ビジョンで土台づくりを進めてきたところでございます。

また、ダム完成後、野川まなび館の運営とい

う新たな歳出項目ができたわけですが、これに関してはご指摘のダムの恩恵財源等も考慮しながら、市内の観光の仕組みづくりとともに検討していきたいと思っています。

なお、やはり大きなまちなかにあるあやめ、つつじとか桜とかそういった観光資源、文教の杜とかやませ蔵とかいろいろあるわけですね。それにやっぱり長井ダムと古代の丘というの大きな観光資源です。それから二つの国の指定天然記念物の桜があるわけですから、ですから長井ダムだけにそれをすべてかけるということではなくて、やっぱり全体で考えていきたいなと。

長井ダムについては、長井市としても恩恵はたくさん受けておりますが、相当なお金もかけてるわけですね。お金かけています。必要でない土地まで買って国に貸したり、あるいは飲料水用の水利権を買ったりしてるわけですね。地下水で十分でもあるにもかかわらず。ですから、そういったことを含めると、長井ダムを生かした活用策をもちろん取り組んでまいりますが、全体として市民に広くその恩恵を与えることも必要なのかなというふうに考えてるところでございます。

なお、平成26年度のデスティネーションキャンペーンと平成25年度のプレキャンペーンでは、長井ダムを生かしたカヌー体験あるいは昨年していただきました百秋湖での遊覧ですね、三淵なども探検できるそういったものと、さまざまな、機能などもいろいろ活用策ございましたけれども、そういったことなどを全国に向けてPRしていくこととしております。並行して、宣伝効果も徐々にあらわれてると思っておりますので、受け入れ体制も含めて人材と環境整備を進めていきたいと思っております。以上でございます。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

ちょっとわかりやすいところから、最後のと

ころから行きます。

観光に生かしていくんだと、長井ダムなりその周辺を生かしていくんだというふうな方針だというふうに捉えてよろしいですか。今の市長のお言葉は。しかも、私が提案したというか指摘した固定資産税であるとか電源立地交付金とかのそういった収入も視野に入れるということで、そういった意味で予算配分も含めた生かし方を目指すということでもよろしいですか。もう一度お願いいたします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 例えば、もう既にスキー場なども電源立地の交付金などを活用させていただいてます。それから、固定資産相当分として当初1億円でだんだん目減りしてくるわけですが、それらについては長井ダムにも生かしますが、やはりそれ以外に長井ダムに長井市として相当な協力としてお金をかけてますので、そこはメインではありますが、それだけではなく、広くやはり使っていく必要があるだろうというふうに考えているところです。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 まなび館を拠点にというふうに私も言ってます、ほかの議員の皆様からもそんな提案が出たと思うんですけども、あそこは、とりあえず維持経費だけ考えれば200万円ぐらいということでした。ただ、そこには人件費やら何やらは含まれてなくて、ただそこに存続をしていくだけの経費は200万円ということですので、例えば電源立地交付金というのは440万円、そのほかにも5,500万円というのがあったわけですが、それはもうだんだんなくなってくるお金ですので、440万円の部分はとりあえず10年先、あるいはそこからまた継続ということもあり得るというような話ですから、当分続くとすれば、まなび館の維持経費はその440万円でまず十分賄えるわけですね。でも今は児童センターの人件費に充当してるわ

けですけれども、そこを何とか、もう決めてほしいんですよ。そのお金はまなび館に使っていくんだと。

先ほど言ったように長期スパンでというふうに私、申し上げたと思いますけれども、ぜひ長期スパンで計画を立てていくんだと、単年度ではなくて。ということは財源というのがやはり一番大きな問題になりますので、人件費はいろんな考え方でいろんなところからということもあり得るかと思いますが、大体200万円の維持管理についてはそれを充てるというような考え方であれば、大体10年はまず当面続くなというふうに理解できるわけですので、その辺の明言はいただけませんか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 昨日もお話ししましたけれども、まなび館をどういうふうに生かすかというところが、まだ明確なものを残念ながら計画として立てておりません。ですから、10年とか20年というふうに考えることは必要なんです、とりあえず、じゃあそのまなび館の維持管理と人件費分だけを置くということではなくて、どういうふうにして運営するのかと、何のために、どういうふうな形で収入財源を、400万円では足りないわけですから、そのところも一緒に考えていく必要があるんで、まずはNPOのほうに今お任せして緊急雇用を25年度まではできるわけでごさいます、きのうもたくさん、おとといもいろいろ、まなび館については、以前からありましたように一番課題は、例えば長井ダムの周辺あるいは朝日連峰の麓まで、ある程度道路が整備されてよくなってるわけですけども、そこに行く際にまなび館を通らなくてもいいわけなんですよ。それをどうするかというのが実は大きい課題だと思ってます。

ですからイメージですよ、これは。あくまでも個人の。県道と市道があるわけですね。あそここのところに大きいゲートつくって、ウエルカ

ムゲートでいいんですけども、必ずまなび館を
通ってから行ってくださいというような。そこ
でやっぱり一人一人、あなた、何のために行き
ますかなんてことは言えないんですが、やはり
例えば長野とかですと自然を守るために車両制
限してるわけですね。それはあそこではできな
いかもしれません。市道でしたら、場合によ
っては条例で定めてできるのかもしれませんが
けれども、山菜取りとかあるいは釣りに入る人も
ちゃんとした手続をしてってくださいと、マナ
ーを守ってくださいということなどもちゃんと
して、なおかつあそこが百秋湖とか長井ダムの
周辺のいろいろなスポーツ、観光、そういった
ところの拠点となるような仕組みづくりをやっ
ぱりきちんとしてからでないと、今からも
400万円、500万円、毎年10年間つけますよとい
うことではなくて、やっていくべきではないの
かなど。

我妻議員の考え方はわかりますが、何のため
にまなび館を残したかわからなくなりますよね。
国のほうでは取り壊すと言ったものを、せつ
かく、もったいないからじゃあ残させてもら
おうと。ただ、長井市だけでは維持できない
ので、ダムの防災センターの機能をわざわざ
持たせてもらったわけですね。それで一時あ
のままでもらったんですが、それが足かせに
なって、せつかく行革でやってきたのに、や
っぱり目的がきちんとしてないにもかかわ
らず、毎年400万円、500万円そこにか
けなきゃいけないということはよくない
と。ですから、早く目的を、計画を立てな
きゃいけないというふうに思っております
ので、そんなことをご理解いただければ
と思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 少なくとも440万円を
人件費に充てるという考え方は、私はない
なというふうに私なりに思っております。

拠点であるというふうに考えれば、どうなる

かはこれから決めるわけですが、考えてい
くわけですので、拠点であるというふう
にさえすれば、そのお金を充てられるん
ではないかというのが私の提案でありま
して、まず市長の考え方もわかりまし
た。

ぜひダム周辺を長井の観光の一つの
大きな目玉、起爆剤に使っていただ
きたいなど、生かしていただきたい
なと思ってるところです。固定
資産税なんか入っているわけ
ですので、財源も幾らかは
当てにできるわけですので、
ぜひ取り組んでいただきたい
と思っております。

それでは、連携の部分で、さくら
回廊が花回廊に発展してJRの
ポスターにも採用になった
ってすごくよい連携の例を
挙げられました。

花回廊はもちろん私わかります。で
すが、通年型の連携というの
は、やはり首長間でまずし
っかりとした握手をして
いただいて、そして観光協
会なり市民団体なりとい
うふうに、行政もそう
ですけども、おりてくる
ようなイメージではない
かなというふうに勝手に
思ってるわけですが、私
も観光協会の役員の一
人をしておりますが、米
沢市の観光協会の方と
話したことはほぼあり
ませんし、観光協会長
同士はあるんだろう
と思えますけれども、
例えば私たち議員が
観光ということであ
ちらの議員と交流す
るなんてこともちょ
っと記憶にありませ
んし、行政同士で何
かそういった連携事
業を米沢市なり南陽
市と組んだということ
もちょっと私の記憶
の中では定かでない
んですが、やはり首
長同士がとにかく通
年を通してしかり
と観光客を呼ぼう
というその意思表示
のような場面、そう
いったものを、ちょ
っと演出的になるか
もしれませんが、何
らかの連携の象徴が
必要ではないかと思
ってるわけですが、
どうもそういう部
分が、花回廊はそれ
はうまくいってるか
と思っておりますが、
そのほかの部分で
ないのではないかと
思うんですが、いか
がでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 確かに十分ではないかもしれませんが、先ほど申し上げたいろいろな連携のほかに置賜総合支庁のほうで、ここ二、三年は特に力を入れていただいてまして、3市5町の首長でポスターをつくっていろんなキャンペーンをしたり、あるいは私も行ってまいりましたけど、東京でイベントを行って愛の武将隊を連れて、それでキャンペーンして地元の物産とかPRをしたり、ただ3市5町そろわないんですよ。なかなか3市5町の首長が一堂に会するのはなかなか難しいんでしょうけども、そういったことをたびたび行ってますし、あるいは置広などでも八食祭ということで去年の秋にしたときも3市5町でPRして、そのときは、これも県が相当力を入れて仙台方面とか福島とか、そういったところから大分お客さんを連れてきていただいたりとかしています。

やはり我々観光でもう少し連携をとっても、結局、本音としてはそれぞれの市町村に、白鷹町のことばかり言って恐縮ですけど、例えばの話ですよ、白鷹町のために観光客を連れていくために私が動くというのは、これは余り好ましくないと。やっぱり長井市もということでしょう。ですから、それはおのずとそれぞれの地域の観光資源を磨くのはそれぞれの市町村で、来てもらうためのPRは一緒にしましょうという考えなんですよ。

ですから、例えばその中でさくら回廊なんかもそうなんですけども、2市1町ですけども、推奨コースをつくってますよね、何通りか。どこにいらしても、例えばいきなり久保桜、大明神桜にいらっしゃるお客さんもいるわけです。そこから次の赤湯とか白鷹町とかですね、そういうふうに行けるような案内はしてるわけなんですよ。でも、我々首長でやっぱり細部までというよりは、観光協会とそれぞれの市町村の観光担当者でそういったところをなさってると思います。あとは例えば観光ボランティアガイド

の人たちも独自に連携を図っておりますし、我妻議員のおっしゃることはわかりますが、そのイメージとして首長同士で腹を割って話して観光客をじゃあこういうふうに連れてこようというところまではなかなか至らないと。やっぱり一番うまく連携を図ってるのは、大田区なんかの産業フェアなんかも私どもと白鷹町で組んだり、あと川崎の多摩区のフェアなんかですと飯豊町が参加したりして、で一緒になってPRとか、ことしどういふものをやるとか、うちはじゃあ芋煮するから、じゃあそっちはもち出せとか、そういうことはしてるわけですけども、なかなかやっぱり具体的な方法がありませんので、議員のほうから何かご提言あればご指導いただきたいというふうに思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 言葉尻をつかんで申しわけないんですが、ぜひ腹を割っていただきたいんですよ、首長同士で。難しいというのはわかりますよ。でも、ぜひ腹を割って、例えば南陽市の赤湯の駅におりてもらわなければ、長井市に東京から来てもらうのはちょっと、バスということもあるだろうけれども、新幹線の場合は赤湯でおりてもらわなくちゃいけない。赤湯でおりにもらうにはどうするのかということ南陽市長と一緒に腹を割って進めていくということだってあるわけですので、そこをそういうわけにいかないということではなくて、そういったことを象徴として、あとは例えば観光協会ですとかボランティアガイドですとか私たち議会もそうかもしれませんけれども、そこに落としていただくというやり方であれば、どうも余り仲がよいようなイメージがないんですよ、3市5町の首長の。関係がですね。イメージですよ、これは。観光事業において。

そこら辺のイメージづくりをしていってほしいと、そういうことで、それに続いていく努力ができるということでもありますので、私も八食

祭ということで実行委員会へ入っておりまして、3市5町の市民レベルの方々と大いに交流をしまして、本当に市民レベルではもう垣根はないなというふうに感じております。3市5町の連携というものをぜひ首長間で腹を割って話ししていただいて、それを下におろしていただきたいなというふうに思った次第です。

コンベンションのほうも拠点施設もいろいろあるんですが、まずコンベンションは、例えば私が所属してる商工会議所青年部という組織がありまして、そこで全国のサッカー大会というのを誘致しようではないかというふうに盛り上がってるんですが、大体600人ぐらい参加するんです、毎年。600人の方を全国から誘致するとなると大体事業費で1,500万円ぐらいかかるということで、でも参加料で大体その半分ぐらいは賄えまして、七、八百万円は賄える。そのほかは、例えば長井市と米沢市と一緒に呼ぼうではないかというときに、やはり一から積み上げていったらもうとてもじゃないけれども、やっぱりやめようよと、大変だというふうになるわけですが、ある程度形ができていて、お客様を呼ぶときはこういうパターンがありますよと。500人規模の場合はこうですよ、1,000人超えるとかいうふうなやり方がありますよというふうにパターンができていれば、じゃあそのパターンでやってみようかというふうに、じゃあ一步を踏みだそうという、その背中を押すことになるんですよ、コンベンションビューローの考え方がしっかりしてれば。

ですから、そういったことをプラットフォームになるのかどうか分かりませんが、しっかりと観光振興計画の中に入れ込んで、それをプラットフォームのところにいれるのかどうかは分かりませんが、計画の中にぜひそういったコンベンションビューローの組織を立ち上げるんだとか形を整えるんだということを入れてはいかがかと思うのですが、どうで

しょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほどの質問の中で抜けてしまったのですが、観光振興計画は10年間の指針で、やっぱり詳細な部分は触れられておりません。連携型観光ということでは広域観光、都市交流、国際観光という3項目でいろいろ触れておりますが、指針だけだと。その中にコンベンション機能についてはプラットフォームの中でしっかりと取り入れるようにしたいと思っております。

また今、具体的な例をお話いただきましたけれども、やっぱりコンベンションの機能というのは、組織としては窓口をしっかりとつけて、例えば商工会議所の青年部さんがこういう企画をしてる、誘致したいというところの支援をどうするかということをきちっとやってく、そういうふうに団体で具体的にそういった案を持ち込んでいただければ、コンベンションビューローとまでいなくても、このプラットフォームの中にそういう機能を持たせれば、さまざまな金額的な支援も必要だったらできるような、そういう仕組みづくりをしていきたいと思っておりますが、コンベンションのメインは経済的恩恵を受ける団体がやっぱり表に出ないとだめだということなんですね。観光協会もそうですよね。

最近の観光協会の会長というのは、やっぱり恩恵を受ける団体の長になるべきだと。いわゆる名誉職ではだめだということと同じように、コンベンションもそうあるべきだと思っております、ぜひそういったことをきちんと計画に盛り込んでいくようにしたいと思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 各いろんな団体にボランティア感覚で所属してたり、商売上どうしてもそういった組合や協会に入ったりという方々がいらっしやいまして、山形県大会だとか何とか総会だとかするとき、じゃあ次の開催地はどこだと、じゃあ私たち手を挙げようじゃないか

というような議論ってあると思うんですけども、そこにもうちゃんとした形ができていれば、長井市でやっても大丈夫だよ、じゃあ手を挙げようよということでお客さんも呼んでくれるわけですね。市が呼ぶわけじゃなくて、観光協会が呼ぶわけじゃなく、その団体の方々が一生懸命になって外から人を呼んでくれるわけですので、そういった安心材料になれば、観光客を大変な思いして呼ぶよりは随分効率のいいやり方ではないかなというふうに思っているわけですので、ぜひ、プラットホームでそういったことをするというような大体的な方針であるとするれば、しっかりと取り組んでいただきたいというふうに思っております。

いずれにしても民間の力が最大のポイントだというふうに私も思っております。

観光交流拠点施設ですけども、24時間というのは、まさにそのトイレのことです。何もコンビニのように24時間営業ということじゃなくて、トイレをあけるということは除雪もしなくちゃいけないですし、防犯灯を立てたり道路交通情報を24時間流さなくてはならないというような、そういったことを強えられるでしょうと、そこには経費がかかりますよねというふうな意味で言ったのでありまして、例に出した鹿沼のところは7時でもう施設は閉館をして、駐車場とトイレは9時で全て閉館をします。ですので、もう一切入れないという状態で、その分どのぐらいの経費が浮くかは聞いておりませんが、24時間トイレをあける、駐車場をあける経費の部分は幾ばかりかは少なくとも済むというような状態だと思っております。

何かいろんなトラブルや悪いことをする人がいるのは大概夜中でありまして、夜中、コンビニのようにあけておく必要はなくて、24時間はコンビニにお任せをすればいいのであって、24時間にこだわらなくてもいいのではないかと、ということでお話しした次第です。市長、いかが

でしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 かわと道の駅の基本計画をこれから、ぜひ議会の皆様からご了承いただいて立てさせていただきたいというふうに思いますが、その中で検討できるのではないかと考えています。

おっしゃるように、確かに経費はかかりますが、それをあえて24時間トイレ休憩とか道路案内、観光案内をしたほうがいいのか、むしろ経費がかかるので、それをしないで適度な時間に閉めてしまうのがいいのか。これは国交省直営ではございませんので、ですから、そういった意味では、ある程度臨機応変に対応できる施設だというふうに考えてるところです。

○7番 我妻 昇議員 終わります。ありがとうございました。

竹田博一議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位12番、議席番号6番、竹田博一議員。

(6番竹田博一議員登壇)

○6番 竹田博一議員 一般質問も最後になりました。よろしくお願いします。

3月定例会に当たり、2点について質問いたします。

ブドウ苗木生産日本一伊佐沢の特性を生かし醸造用ブドウ農場の誘致に向けてブドウ栽培を行うため、伊佐沢地区ブドウ生産農家のグループが耕作放棄地を再生して実験圃場を整備するものとして255万4,000円が計上されました。アルコールの飲み物といえば日本酒、ビール、焼酎等が主に飲まれておりますが、これからの食生活に欠かせなく、大きく伸びる可能性のものはワインだと思います。ご存じのとおりワインはアルカリ性食品であり、女性の方にも大変人